

「ライフプラン・福利厚生事業に関するアンケート」 集計結果

1 対 象

全組合員（約 40,000 人）

2 実施期間

平成 28 年 7 月 15 日～平成 28 年 9 月 30 日

3 実施方法

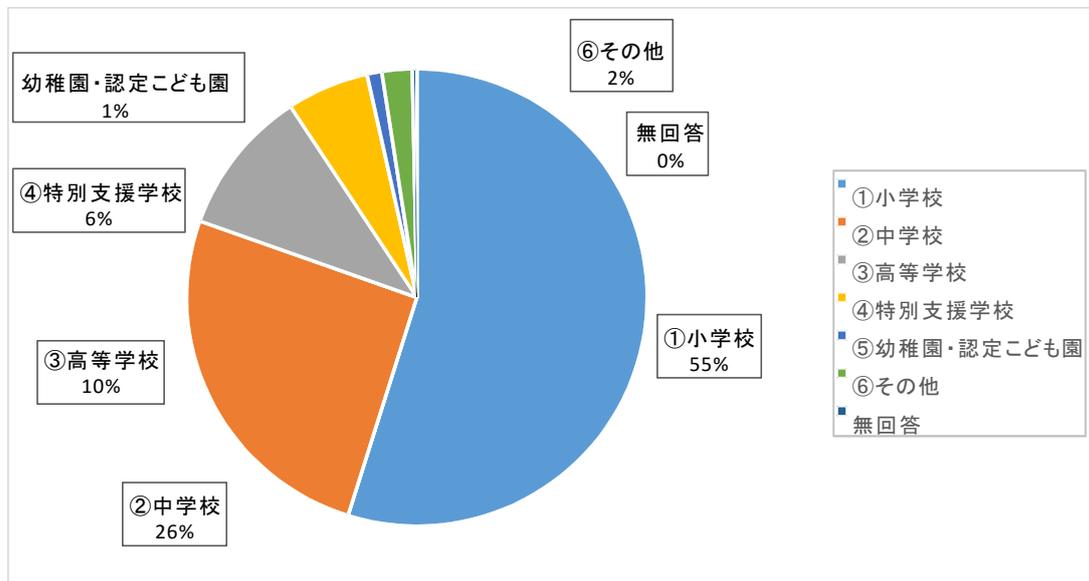
公立学校共済組合千葉支部広報誌「福利ちば」に折込みの方法でアンケートを配布し、同封の返信用封筒で回答済みのアンケート用紙を各学校から収集又は千葉支部ホームページのアンケートフォームから回答する方法で回答を募った。

4 回答者数

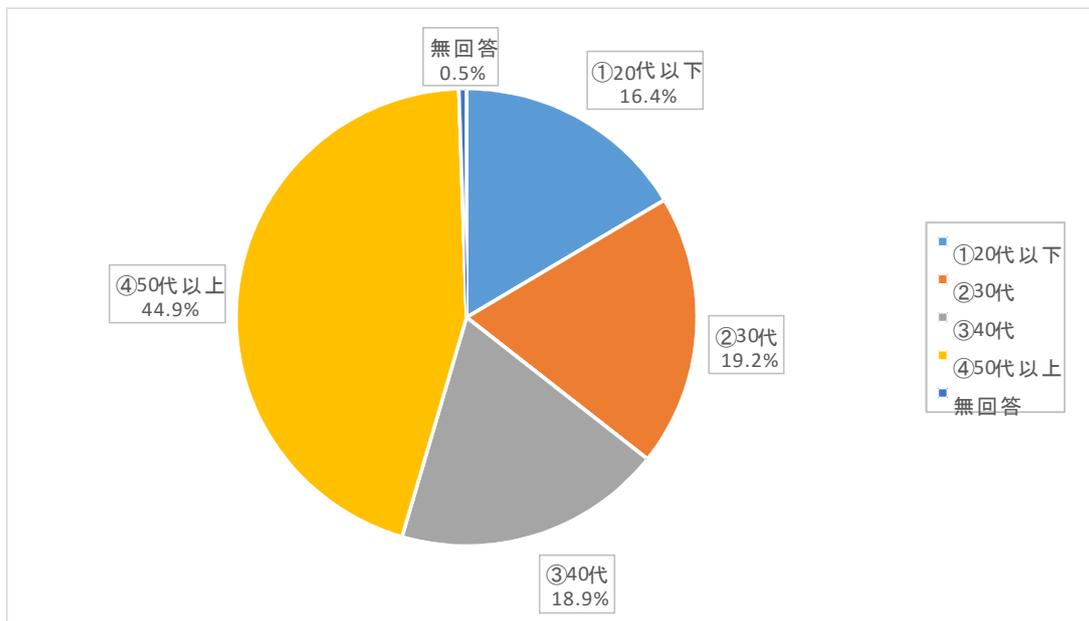
8,730 人（回答率 約 22%）

1 回答者の概要

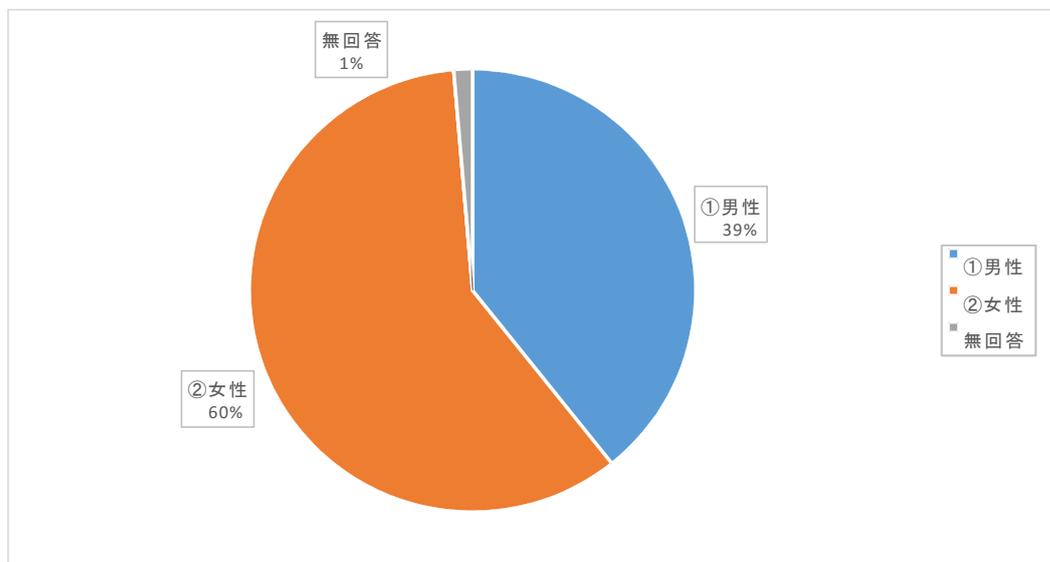
(1) 勤務区分



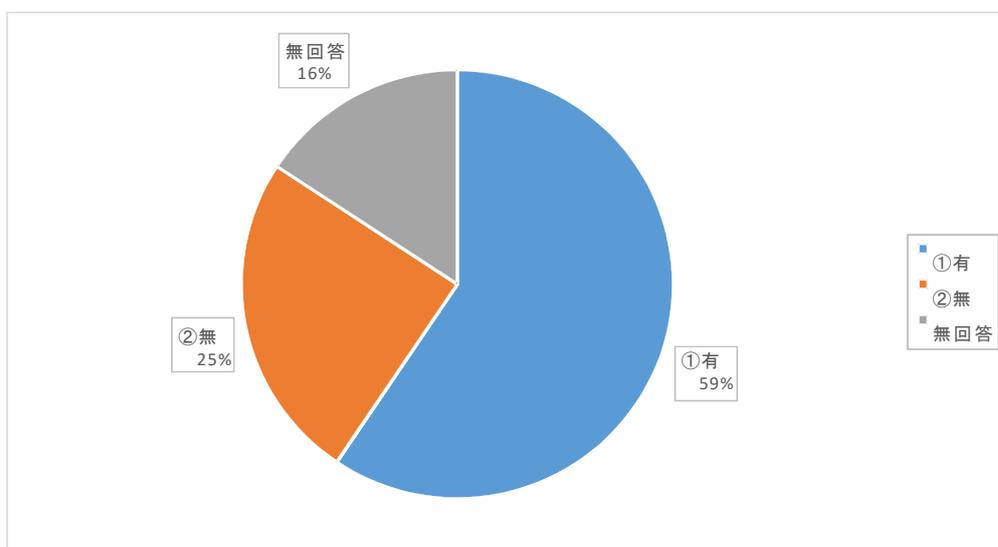
(2) 年代



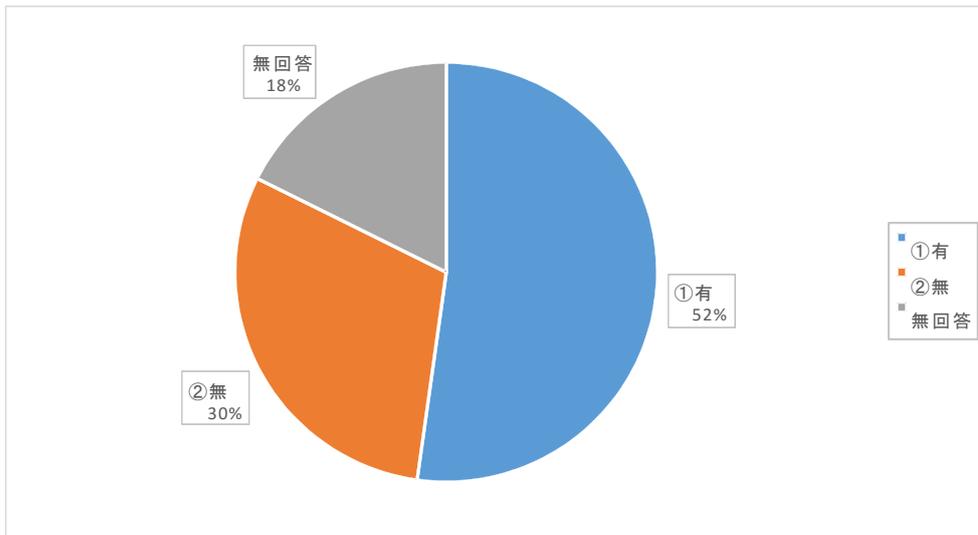
(3) 性別



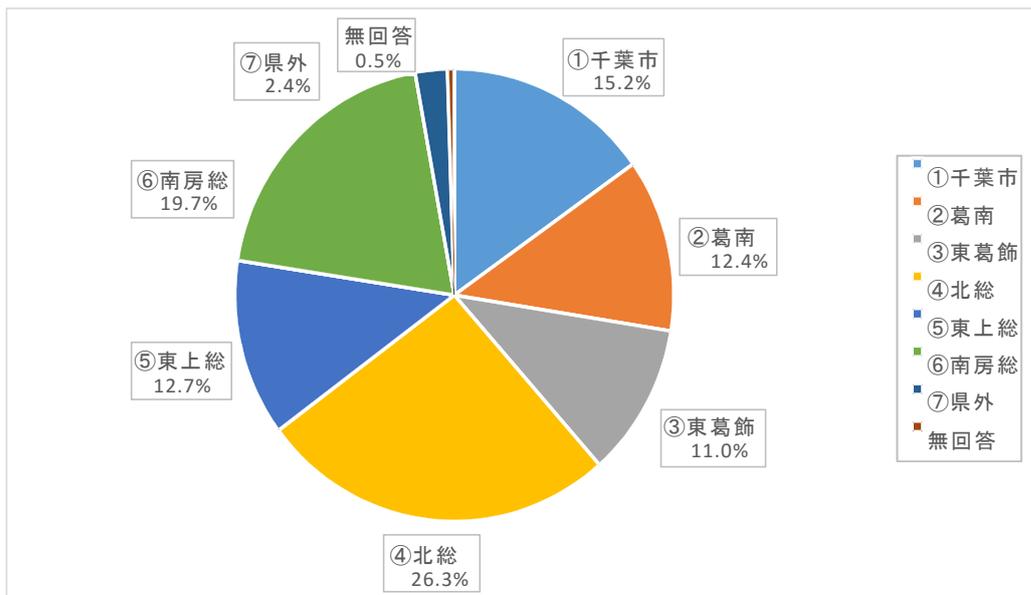
(4) 配偶者の有無



(5)子どもの有無



(6)居住地域



2 現在・将来の生活

(1)現在の生きがい

[Q7]現在、どのようなことに生きがいを感じていますか は、「家族・家庭」、「仕事」の順に多い。

1位	家族・家庭	: 29.2%
2位	仕事	: 25.8%
3位	趣味	: 18.5%
4位	友人等との交流	: 13.5%

☞20代以下と30代以上で、最も多く選択された項目は異なる。

20代以下	: 友人等との交流	28.0%
30代以上	: 家族・家庭	31.8%

☞全年齢では、男女で上位1~2位は同順位。

「趣味」(男性21.2%>女性16.7%)、「友人等との交流」(女性16.7%>男性8.8%)と、項目によっては男女差が大きい結果となった。

(2)休日の過ごし方

[Q8]休日の過ごし方として、行うことが多いものは何ですか は、回答が多様となるが、「休養」、「家事・育児等」、「趣味」の順に多い。

1位	休養	: 22.7%
2位	家事・育児等	: 20.6%
3位	趣味	: 19.6%
4位	職場で仕事	: 13.7%

☞最も多い休日の過ごし方は年代によって異なる。

20代以下	: 趣味21.3%、休養21.2%
30代	: 家事・育児等25.7%
40代	: 家事・育児等28.1%
50代以上	: 休養25.8%

☞男女の違いは大きく、男性は「趣味24.4%」が最多、女性は「家事・育児等24.1%」が最多回答となった。

(3)生活における優先対象

【理想の優先対象】

[Q9]仕事・家庭・個人（趣味等のプライベート）の優先度について の理想は、上位3位までには「家庭」が含まれる。

1位 仕事・家庭：22.1%

1位 家庭・個人：22.1%

3位 家庭：18.0%

4位 個人：12.3%

5位 すべて：11.8%

☞最も多く選択された「理想とする優先対象」は年代によって異なり、50代以上になると「仕事」が含まれる。

20代以下：家庭・個人 19.1%

30代：家庭 25.9%

40代：家庭・個人 22.7%

50代以上：仕事・家庭 25.0%

☞男女差は小さいものの、最も多く選択された優先対象は、男性は「仕事・家庭 22.5%」、女性は「家庭・個人 23.5%」。

【現実の優先対象】

[Q10] 仕事・家庭・個人（趣味等のプライベート）の優先度について の現実には、理想から一転し、「仕事 55.0%」が最多で、さらに優先対象の上位3位までに「仕事」が含まれる。

1位 仕事：55.0%

2位 仕事・家庭：22.7%

3位 仕事・個人：8.0%

☞最も多く選択された現実の優先対象は、全ての年代で「仕事 53~60%」、また、男女いずれも「仕事 55%程度」という結果となった。

(4)ワーク・ライフ・バランスについて

[Q11] 現在、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を実現できていると感じますか は『できている 39.7%』、『できていない 57.8%』。

『できている』：「できている 4.5%」「ほぼできている 35.2%」の合計

『できていない』：「あまりできていない 48.1%」「全くできていない 9.8%」の合計

☞『できていない』は、「男性 52.6%」、「女性 61.2%」と女性が多く、年代別では、「20 代以下 56.6%」、「30 代 60.6%」、「40 代 61.9%」、「50 代以上 55.6%」と、全ての年代で半数以上が回答。

[Q12] ワーク・ライフ・バランスを実現するために工夫していることは何ですか は、「家族の協力」、「定時帰宅を心がける」の順に多い。

1 位 家族の協力 : 30.2%

2 位 定時帰宅を心がける : 23.4%

3 位 同僚等との協力 : 19.6%

4 位 終業後の予定づくり : 18.7%

☞20 代以下は「終業後の予定づくり 26.6%」が最多、30 代以上は「家族の協力 31~34.9%」が最多。

☞男女差は小さいものの、「家族の協力」は、女性（29.4%）が男性（18.4%）よりかなり多い。

[Q13] ワーク・ライフ・バランスを実現できていない理由は、「仕事が忙しい」からという回答が最多。

1 位 仕事が忙しい : 38.4%

2 位 個人で楽しむ精神的余裕がない : 12.7%

3 位 休暇が取りづらい職場環境 : 7.0%

4 位 家事・育児等が忙しい : 6.9%

5 位 個人の時間を楽しむためのお金がない : 4.4%

[Q14] ワーク・ライフ・バランスを実現する（または将来的に継続し続ける）ためには、どのようなこと（意識・制度等）が必要と考えますか は、「文書作業の効率化 40.4%」、「職場全体の定時退庁 24.4%」ともに、年代、男女による違いはない。

(5)将来の生活についての不安

※本設問では不安度を「1（全く不安を感じない）→5（大きな不安を感じる）」で示している。

[Q15~20] 将来の生活についての不安度は、「自身の健康」が最多回答。

- | | | |
|----|---------|---------|
| 1位 | 自身の健康 | : 59.3% |
| 2位 | 仕事 | : 52.4% |
| 3位 | 家庭の経済状況 | : 44.5% |
| 4位 | 家族・親族 | : 37.7% |

☞20代以下・30代は「仕事」に対する不安度が最も高く、40代・50代以上では「自身の健康」に対する不安度が最も高い。

[Q21] 将来の生活を充実させるために、今から準備しておいた方がよいと思うことは、「健康の維持・増進」、「貯蓄・投資などの経済的基盤づくり」が多い。

- | | | |
|----|------------------|---------|
| 1位 | 健康の維持・増進 | : 79.1% |
| 2位 | 貯蓄・投資などの経済的基盤づくり | : 74.3% |
| 3位 | 家族・友人などとの交流 | : 38.2% |

☞20代以下・30代は「貯蓄・投資などの経済的基盤づくり 30%」が最多、40代・50代以上は「健康の維持・増進 33.4%」が最多。

3 福利厚生事業

(1)福利厚生事業各分野の利用頻度

※本設問では利用頻度を「1（頻度が低い）→5（頻度が高い）」で示している。

[Q23～26]共済組合が実施する福利厚生事業各分野の利用頻度は、「人間ドック・各種検診事業補助」、「レジャー支援」、「セミナーの受講」、「健康サポート支援」の順に高い。

1位	人間ドック・各種検診事業補助	: 52.8%
2位	レジャー支援（入園料・宿泊料等補助）	: 11.8%
3位	セミナーの受講（健康・経済・介護・退職準備）	: 6.6%
4位	健康サポート支援（ジム等利用補助）	: 4.9%

- ☞ 「人間ドック・各種検診事業補助」は年代によって利用頻度が大きく異なり、利用頻度が高いという回答は40代・50代以上が最多（45～59%）。
- ☞ 「人間ドック・各種検診事業補助」の利用頻度は、女性（42.7%）が男性（33.1%）よりもかなり多い。

(2)人間ドック・各種検診事業補助について

[Q27]40歳に人間ドック補助額を増額した場合、通常の補助額となる41歳以後についても、人間ドックを利用したいと考えますか は、『利用したい』が79.5%
『利用したい』：「積極的に利用したい47.2%」「前向きに考える32.3%」の合計

- ☞ 『利用したい』は、30代が最多（88.0%）
- ☞ 『利用したい』は、女性（81.3%）が男性（76.5%）よりやや多い。

[Q28] [Q27]で利用しないを回答した理由は、「職場の定期健康診断を利用」が最多。

1位	職場の定期健康診断を利用	: 63.9%
2位	経済的負担が大きい	: 39.5%

- ☞ 人間ドックの補助は30歳以上が対象となるため、補助制度がない20代以下は「人間ドックは敷居が高く利用しにくい17.4%」が最多、30代・40代・50代以上は「職場の定期健康診断を利用22～28%」が最多。

[Q29]利用している検診または補助が出るのであれば利用したい検診は、「胃検診」「大腸検診」、「婦人科検診」の順に高い。

1位	胃検診	: 58.7%
2位	大腸検診	: 57.6%
3位	婦人科（子宮がん・乳がん）検診	: 50.8%
4位	歯科検診	: 43.6%
5位	骨粗しょう症検診	: 39.2%
6位	肺がん検診	: 36.7%
7位	前立腺がん検診	: 24.4%

☞20代以下は「婦人科検診 55.0%」が最多、30代・40代・50代以上は「胃検診 60～66%」が最多。

☞男性は「胃検診 62.1%」「大腸検診 62.1%」が最多、女性は「婦人科検診 83.0%」が最多。

[Q30]歯科検診は、「利用したことがない 86.4%」で、「利用したことがある 10.0%」と、認知度が低い。

☞全ての年代で「利用したことがない 86%」で、男女とも「利用したことがない 86%」と年代、男女差はない。

[Q31]歯科検診を利用したことがない理由は、「この事業を知らなかった」が最多。

1位	この事業を知らなかった	: 46.6%
2位	対象年齢に該当したことがない（今後、利用を希望する）	: 19.3%
3位	歯科病院を受診する時間がない	: 15.0%
4位	協力歯科医院に含まれていない歯科医院で検診を受けている	: 12.9%

☞全ての年代で上位1～4位まで同順位。

☞男女いずれも「この事業を知らなかった」が最多で、割合は男性（52.2%）が女性（42.9%）よりかなり多い。

(3) レジャー支援事業について

[Q32]補助額・回数 は、「多い 12.0%」、「少ない 64.6%」と、補助額が低く、年間の利用回数が上限 2 回のため、回数も少ないと感じている。

☞ 「少ない」は、30 代・40 代（68%）が、20 代以下・50 代以上（62～64%）よりもやや多い。

[Q33]利用可能施設数 は、「多い 14.2%」、「少ない 63.1%」と、利用できる施設の数が少ないと感じている。

☞ 「少ない」は、全世代とも 6 割以上が回答。

[Q34]サービス内容 は、「良い 43.4%」、「悪い 23.0%」と、良いという回答が多い。

☞ 「良い」は、成人前の子どもがいることが多い 20 代以下～40 代（50%）が、50 代以上（35.8%）よりもかなり多い。

[Q35]利用のしやすさ は、「利用しやすい 26.0%」、「利用しにくい 50.5%」という回答から、事業の提供方法を検討していくことが課題。

☞ 「利用しにくい」は、20 代以下・30 代（53%前後）が、40 代・50 代以上（49%前後）よりもやや多い。

(4)健康サポート支援について

[Q36]補助額・回数 は、「多い 13.8%」「少ない 59.9%」と、補助額が低く、年間の利用回数に制限がある施設もあるため、回数も少ないと感じている。

☞「少ない」は、30代・40代（62%）が、20代以下・50代以上（59%）よりもやや多い。

☞「少ない」は、男性（63.1%）が女性（57.7%）よりもやや多い。

[Q37]利用可能施設数 は、「多い 13.6%」「少ない 60.6%」と、利用できる施設の数が少ないと感じている。

☞全ての年代、男女とも「少ない」が6割。

[Q38]健康サポート支援のサービス内容は、「良い 39.8%」「悪い 23.8%」、また、「無回答 35.6%」と、利用がないため回答できないなど、利用者に偏りがあることが考えられる。

[Q39]健康サポート支援の利用のしやすさは、「利用しやすい 19.9%」「利用しにくい 54.7%」と、利用しにくいと感じている。

☞「利用しにくい」は、20代以下～40代（55～58%）が、50代以上（51.7%）よりもやや多く、回答に男女差はない。

(5) セミナー受講について

[Q40] 参加したことがあるセミナー及び今後参加したいと考えているセミナーは何ですか は、「退職準備セミナー」、「ライフプランセミナー」が多い。

1位	退職準備セミナー	: 19.1%
2位	ライフプランセミナー	: 17.3%
3位	健康づくり講座（健康ダイエットコース）	: 10.8%
4位	メンタルヘルスセミナー	: 10.3%

☞ 参加したセミナー・参加したいセミナーは年代によって異なる。

- ・ 20代以下 : 健康づくり講座（健康ダイエットコース）18.1%
- ・ 30代 : ライフプランセミナー13.9%
- ・ 40代 : 退職準備セミナー18.1%
- ・ 50代以上 : 退職準備セミナー24.5%

☞ 上位 1～2 位まで男女とも同順位。なお、3 位は、男性が「健康づくり講座（生活習慣病予防）5.2%」、「メンタルヘルスセミナー5.2%」、女性が「健康づくり講座（健康ダイエットコース）11.7%」という違いがあった。

[Q41] ライフプランセミナー で 将来の生活設計を考えるにあたり、知りたい情報は何か は、「公的年金」、「退職手当」が圧倒的に多く、退職後の経済設計についての情報を求めていることがわかる。

1位	公的年金	: 24.9%
2位	退職手当	: 20.3%
3位	医療制度	: 10.4%
4位	税金	: 9.4%
5位	経済設計の方法	: 8.8%

☞ 全ての年代、男女とも、上位 1～2 位まで同順位。

[Q42] メンタルヘルス事業について、 今後、追加した方がよいと思われるものは何か は、「学校を熟知した専門相談員等窓口の増設」が多い。

1位	学校を熟知した専門相談員等窓口の増設	: 27.0%
2位	インターネット予約制度（面談・電話相談）	: 15.9%
3位	所属・自宅等、組合員の近場に訪問する個別相談	: 11.0%

☞ 全ての年代、男女とも、上位 1～2 位まで同順位。

(6) 福利厚生事業に望むもの

[Q43]特に充実を望む 福利厚生事業は、5割が「人間ドック・各種検診事業補助」と回答。

1位 人間ドック・各種検診事業補助 : 50.2%

2位 レジャー支援（入園料・宿泊料等補助）: 16.7%

☞全ての年代で上位1~2位まで同順位、「人間ドック・各種検診事業補助」は、年代が上がるにつれて大きく増加し、「レジャー支援（入園料・宿泊料等補助）」は、30代が最多。

[Q44]新設を望む 福利厚生事業は、「レジャー支援（入園料・宿泊料等補助）10.4%」が最多。

1位 レジャー支援 : 10.4%

2位 子育て支援 : 8.8%

3位 介護サービス等支援 : 8.2%

☞新設を望む福利厚生事業は年代によって異なる。

・20代以下・30代：子育て支援（14~18%）

・40代 : レジャー支援（入園料・宿泊料等補助）（11.8%）

・50代以上 : 介護・サービス等支援（11.5%）

[Q45]不要と考える 福利厚生事業は、「芸術文化鑑賞等のチケット補助4.6%」と回答。また、「無回答81.8%」が最多。

1位 芸術文化鑑賞等のチケット補助 : 4.6%

2位 健康サポート支援（ジム等利用補助）: 4.0%

☞ほぼ全ての年代で「芸術文化鑑賞等のチケット補助」が最多（4%）回答。

(7)レジャー支援・健康サポート支援の内容変更について

※現在のレジャー支援・健康サポート支援事業を縮小・廃止し、全国の施設を対象とした幅広い分野を利用できる内容への変更について

[Q46]現在のレジャー支援・健康サポート支援は、主に県内の施設を対象としていますが、現在の事業を縮小・廃止し、全国の施設を対象とした幅広い分野を利用できる内容に変更した場合、利用したいと考えますか は、『利用したい』67.3%、『利用を望まない』27.6%と、『利用したい』が多い。

『利用したい』:「積極的に利用したい16.0%」「できれば利用したい51.3%」の合計

『利用を望まない』:「あまり利用を望まない20.3%」「利用を望まない7.3%」の合計

☞『利用したい』は20代以下・30代が7割に対し、40代・50代以上が6わりと、年代が上がるにつれて減少している。

[Q47] [Q46]で『利用したい』と回答した理由は、「千葉県内だけでなく、全国で利用できる方が利用しやすい65.4%」が、「利用できる分野が広がることを希望する54.4%」の順で多く、男女差はない。

[Q48] [Q46]で『利用を望まない』と回答した理由は、「現在、利用している内容の継続・充実を希望する54.5%」が、「レジャー支援や健康サポート支援事業そのものに興味がない」が46.6%で多い。

☞20代以下・50代以上は「レジャー支援や健康サポート支援事業そのものに興味がない」が4割、30代・40代は「現在、利用している内容の継続・充実を希望する」が5割でそれぞれ最多。

☞男性は「レジャー支援や健康サポート支援事業そのものに興味がない45.9%」、女性は「現在、利用している内容の継続・充実を希望する51.4%」が最多。

(8) 福利厚生事業へのインターネット・アクセスについて

[Q49] PC・スマートフォン等を利用し、インターネットの専用サイトへアクセスする方法により、厚生事業を利用できる場合、利用を望みますか は、『利用したい』が 71.5% (注 1)、『利用を望まない』が 27.7% (注 2)

(注 1) 「積極的に利用したい 19.0%」「できれば利用したい 52.5%」の合計。

(注 2) 「あまり利用を望まない 17.2%」「利用を望まない 7.5%」の合計

- ☞ 『利用したい』という回答は、20 代以下・30 代が 8 割、50 代以上 61.4%と、年代が上がるにつれて減少。
- ☞ 『利用したい』は、男性 (74.5%) が女性 (69.5%) より多い。

[Q50] [Q49]で『利用を望まない』と回答した理由は、「個人情報の流出等、情報セキュリティに不安がある」が最多。

- | | | |
|-----|-------------------------|---------|
| 1 位 | 個人情報の流出等、情報セキュリティに不安がある | : 54.1% |
| 2 位 | PC等での操作に不安がある | : 33.3% |
| 3 位 | インターネットを使用する習慣がない | : 25.8% |
| 4 位 | インターネットを手軽に利用できる環境がない | : 15.6% |

- ☞ 全ての年代で「個人情報の流出等、情報セキュリティに不安がある」が最多回答で、「PC等での操作に不安がある」「インターネットを使用する習慣がない」は年代が上がるにつれて増加。
- ☞ 男女いずれも「個人情報の流出等、情報セキュリティに不安がある」が最多、割合は女性 (58.7%) が男性 (46.4%) より多い。